

幸区パラリンピック採火式の開催について
【区民等の『想い』の収集に係るお願い】

幸区長 関 敏 秀

日頃より本区の様々な行政サービスに御理解、御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年8月、東京2020パラリンピックが開催されることに伴い、川崎市では、市内7区がそれぞれの特性を踏まえ、聖火の種火を灯し、これを採火・集火するイベントを実施いたします。

本区における採火イベントは、現下の状況を踏まえ、関係者のみで8月9日（月・祝）に開催する予定としておりますが、多くの方にイベントへの関わりを持っていただくため、多くの区民から、「幸」にちなんだ想いを短冊に寄せていただき、パネルに貼り付け、想いを繋いでいくとともに、完成したパネルを前にして採火イベントを行う“区民参加型”のイベントを行いたいと考えております。

また、これと合わせ、かわさきパラムーブメントに掲げるレガシーの形成に向け、連携が必要となる市内の企業及び団体の方々からも、現在の様々「想い」を集めて、それを伝えて、未来へつなげていくパネルの作成も行ってまいります。

なお、寄せられた「想い」とそのパネルは、今後の区制50周年、市制100周年をはじめ、様々な機会を捉えて、多くの方にご覧いただくとともに、今後の区の実施に活かしていきたいと考えております。

つきましては、趣旨をお汲み取りいただき、短冊の作成及び収集に御協力賜りますようお願いいたします。

1 幸区パラリンピック採火式について

・別紙1を御参照ください。

2 幸区パラリンピック採火式のコンセプトについて

「地域のつながり」・「世代間のつながり」を表現し、未来へとつないでいく

3 集める『想い』について

貴事業所での仕事や活動を通じて、多くの人に伝えたいことやその想い

（関係の深いレガシー 【②心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～】）

【⑦誰もが職業等を通じて社会参加できる環境】）

4 記入をお願いする方

貴事業所の職員や関係者で御協力いただける方

5 『想い』の記入方法

同封の「レガシーカード」（大きさ：5cm×4cm）にご記入ください。

6 短冊の収集について

お手数をおかけしますが、収集いただいた短冊を返送用封筒に封入いただき、7月30日（金）までにお送りいただけますよう、お願いいたします。

【担当】

まちづくり推進部企画課 名藏、田邊

電話 556-6612

E-mail 63kikaku@city.kawasaki.jp

◆ かわさきパラムーブメントにおけるレガシー

② 心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～

【概要】

人には、障害の有無や加齢による心や体の変化、性的指向、国籍など様々な心身の特性や考え方がありますが、誰もが知らず知らずのうちに、「自分とは違う存在である」というような、差別意識とは違う「心のバリア」を作りがちであり、それが言動に表れることにより、当事者に様々な想いを抱かせてしまうことがあります。

また、「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」においては、各人がこの「心のバリアフリー」を体現するためのポイントは以下の3点であるとしています。

- ・障害のある方への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること。
- ・障害のある方（及びその家族）への差別（不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供）を行わないよう徹底すること。
- ・自分とは異なる条件の多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培うこと。

こうしたことから、誰にもそれぞれ心身の特性や考え方があるという前提に立ち、すべての人々が相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、生かし合うという意識が醸成され、かつ一人ひとりの具体的な行動が継続されている状態としての「心のバリアフリー」をレガシーとします。

【レガシーが形成された状態】

- ・すべての人が、自他の個性を尊重し、相互にコミュニケーションをとることができる。
- ・すべての人が、自らの心のバリアを取り除く実践的な行動をとっている。
- ・社会的マイノリティの当事者が、自分たちも社会を構成するかけがえのない存在であることを確信し、社会生活上のバリアを取り除くうえで必要なことを他者に伝えられている。

記入例

障害を持つ方が生きやすい社会をつくりたい

障害者の方の気持ちに寄り添って仕事を行いたい

差別や偏見のない世の中にしたい！

◆ かわさきパラムーブメントにおけるレガシー

⑦ 誰もが職業等を通じて社会参加できる環境

【概要】

人口減少社会にあって、持続可能で誰もが地域社会で自立していきいきと暮らせるまちづくりを進めていくためには、自らの持つ可能性を信じて能力を最大限に伸ばし、職業やその他の趣味・学習活動等も通じて自己実現できる環境を整えていくことが必要となります。

そのためには、「心のバリアフリー」と「ユニバーサルなまち」を前提として、障害のある方の働く意欲の向上、就労マッチングをはじめ、企業に対する支援体制の構築や社会的マイノリティに関する理解促進に向けた普及啓発などにより、短時間雇用を含むさらなる障害者雇用の促進や、誰もが働きやすい職場環境の構築が重要となります。

また、雇用・就労だけでなく、その他の趣味や学習活動などに幅広く関心を持ち、それを実践できる環境を整えることも必要です。

こうした取組の継続により、障害者をはじめとする社会的マイノリティの方の雇用に対する理解が進み就労等ができたり、その他の趣味・学習活動を楽しめたりする環境が整った状態としての「誰もが職業等を通じて社会参加できる環境」をレガシーとします。

【レガシーが形成された状態】

- ・ すべての人が、社会参加しようとする意欲を持っている。
- ・ すべての人が、お互いの個性を理解し、一緒になって仕事や、趣味、学習活動等を行っている。

記入例

障害を持つ方が働き
やすい環境をつくり
たい

障害者の方の趣味や
学習のお手伝いをし
たい

障害のある人もない人も
一緒になって活動してい
る社会を目指したい